

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2014年度 第11回

報告題名(title) : 津波被災地域における農業生産法人によるコミュニティの再構築 —宮城県東松島市を事例として—			
報告者(name)	渥美 敦順	日時	12月18日 午後3時～
所属分野(labo)	農業経営経済学	場所	第2講義室
座長	金 鑫	議事録担当者	武居 史弥
出席者 スチン、宮里、タンポウニ、Bayu、カライ、ナスン、西田、渥美、伊藤、金、青木、黒岩、嶋倉、秀、 島山、武居、マンダルワ			

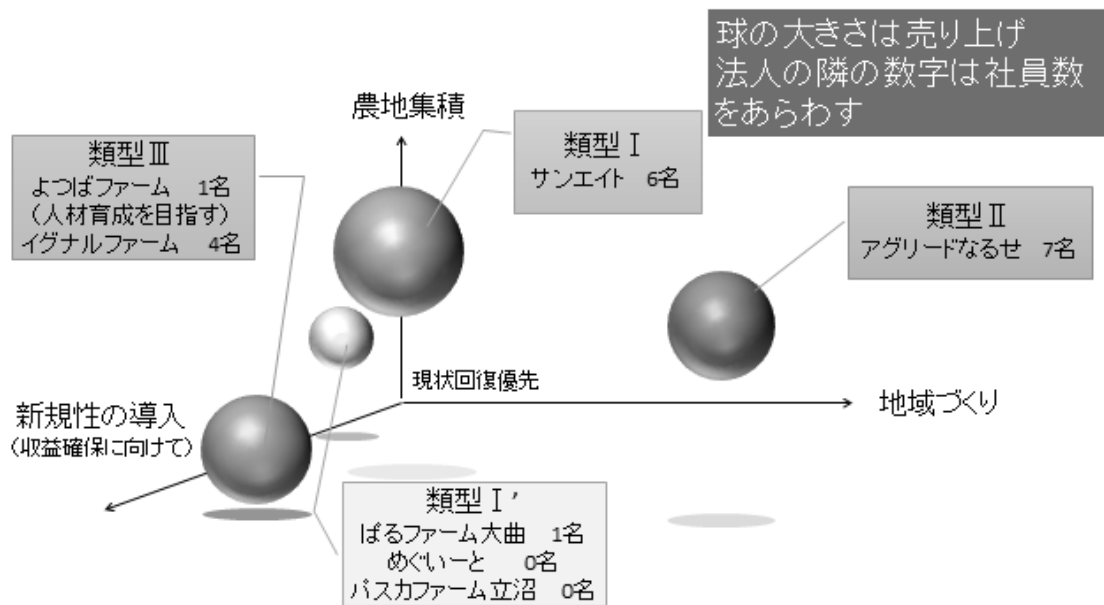
報告要旨 (Abstract)

東日本大震災から 3 年が経ち、津波被災地では被災地では地域農業が再編され、農業生産法人が多数設立されている。そして、圃場整備などのハード面の復旧・復興から、集団移転に伴う地域コミュニティなどのソフト面の復旧・復興に課題も変化している。

震災を受けて従前に存在していた農家間のコミュニティ（生産活動だけでない地縁的結びつきの強い安定的な地域社会を指す）が変化したのは明らかである。また、津波被災地は都府県農業の 10 年後の姿と言われているが、津波被災地における担い手組織の確立やその経営展開のあり方は、これからの都府県農業の将来を見通す上で重要な試金石と考えられる。

本報告では、津波被災地域において農業生産法人は地域の担い手となり得るのか、また、持続性があるのかについて検討する。そして、類型ごとの地域との関わり方に関して考察を行う。具体的には、宮城県東松島市の農業生産法人を対象にヒアリング調査を実施し、関連資料から農業生産法人の類型化を行った。

類型化を行った結果、以下の図のようになった。



ここから類型ごとの地域との関わり方に関して考察を加えていく。

質疑・応答(Q & A)

長谷部：目的がいまいちよくわからない。今の発表で震災後コミュニティの変化は明らかとあったが具体的にどうゆうことなのか。また、何がどう変化したから農業生産法人がどういった役割を担うべきなのかという点に詳しく説明してほしい。

渥美：まず、変化したのは明らかと言う点ですが、もともといた農家が震災後に離農している状況を考えれば、コミュニティが変化しているというのは明らかだと思います。既往研究でも言及されておりま。また、農業生産法人がコミュニティでどのように位置づけられるかと言う点ですが、農業生産法人が所属する従来のコミュニティ、また新規のコミュニティでどのような立ち位置になるのか明らかにしていきたい。

長谷部：具体的にどう変わったのか？変わったら問題があるのか？

渥美：コミュニティは時代時代で変化していくものであり、変わることに問題はありません。ただ、そのなかで農業生産法人とコミュニティとの関係がどう変わっていくのかに焦点を当てていきたい。

長谷部：農業生産法人は農業の担い手として存在していれば問題ないのではないか。地域コミュニティのなかで農業生産法人がもっと積極的な役割を果たすべきだという暗黙の前提でもあるのか？

渥美：暗黙の前提ではないですが、ある程度地域から期待されているものはあると思います。農業生産法人も地域への思い入れもあると思いますので、農業だけでなく地域や農家間を繋ぐ役割があっていいと思います。

長谷部：そういった前提のもと、類型化などを行っているが、結局、農業生産法人はどうあればいいのか？

渥美：今のところ三つほどありまして、一つ目は地域住民を巻き込んで愛着的つながりをつくる法人もあるでしょうし、二つ目に生産時に必要な労働力を提供する機能的な繋がりもあるでしょうし、三つ目には産業同士で繋がりが必要なときに地域と繋がる場合が考えられます。

長谷部：最終的には、地域コミュニティの変わり方により、その地域でどのパターンの農業生産法人が求められるのか明らかにしてほしい。

渥美：わかりました。ありがとうございました。

伊藤：目的で言及している繋がりとは何と何との繋がりを表しているのか？

渥美：主に地域住民と農業生産法人との繋がりですが、それ以外にも生産法人同士や、法人と販売先である卸売業者等との繋がりも含まれます。ひとえに繋がりと言っても多様な繋がりがあります。

伊藤：となると類型ごとで繋がりとは別の意味をもつということでしょうか？

渥美：そうですね。

伊藤：背景で言及されている村と人の空洞化に対してここで類型化された繋がりがどういう意味を持つのでしょうか？

渥美：そこまでまだ考えが及んでおらず、今後の課題としたいと思います。

米倉：今回の発表でも元気がない。農業生産法人が震災後のコミュニティの変化のなかで、もとに戻すような力強い可能性があるのかどうかといったあなた自身の評価を知りたい。

渥美：今後の参考にさせていただきます。元気がないのは発表を冷静に行っているからです。

木谷：それぞれの法人にいろいろと調査したみたいだが、法人の経営者その人の地域への思いやりについて知りたい。また、その人の生い立ちや属性と言ったものが類型にどう現れているのか知りたい。類型化が地域にどう影響を与えているかではなく、その逆ではないか。システムティックに考えすぎている

るのではないか。それと、震災からの再建の流れは間違っているのではないか。これらはすべて同時並行に起きているのではないか。

渥美：わかりました。参考にさせていただきます。